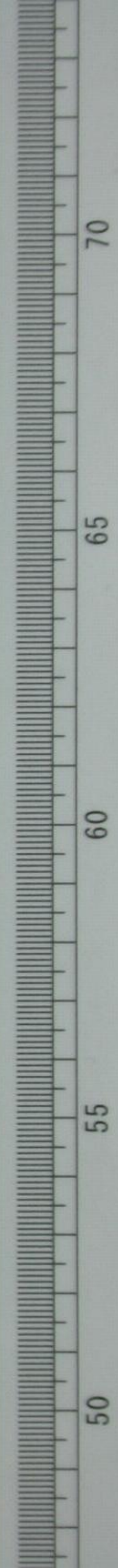


イ13
914
8



413
914
8

用陽軍鑑末書結票本九之卷月錄

花房仙太郎氏寄贈

一 三社其外諸尊之御事

二 一方一心是付明成者大將五ヶ條之事

三 右明成者大將之御事五ヶ條之事

四 明成家之諸人觀念七箇條之事

五 信玄御陣取之奉給場之事

六 軍配之御事三ヶ條之事

七 信玄御事八ヶ條之事

此等御事三ヶ條之事

城拾箇條之更

九 城取極之拾一ヶ条之更

十 ち手と此形殺めか子綯場之事

十一 山城水く手筋繩し事綯場之

十二 人万之他思氣入心二ヶ条之更

十三 由いと者極三ヶ条之更

十四 倍言之大將氣御批判三ヶ条之更

十五 軍陣取綯場之更

十六 軍合戦陣取理三ヶ条之更

十七 右陣取断五ヶ條之更

十八 倍言之拾六ヶ文字極之更

十九 倍言之軍三ヶ条錯要之更

二十 慎遠之三文字く用三ヶ条之更

廿一 高坂源之申儀三ヶ条之更

廿二 正道邪之三箇條之更

廿三 之核子綯場之の之云條之更

物之んが被成見之定學之更

廿四 高坂源之批判三ヶ條之更

九五 高坂彈正軍配之事

廿六 高坂彈正奉公人、教拾六箇條之事

廿七 公持之口名地思氣七ヶ条之事

廿八 信玄之、用給文字拾六ヶ条之事

廿九 信玄流一万支之格位三ヶ条之事

三十 軍軍書封書込三版与箭羽言三箇条之事

卅一 射陣之沙汰九ヶ条之事

卅二 獨武者独道輝武者網武者三版三ヶ条之事

卅三 信玄之敵城取治御煩見三ヶ条之事

卅四 高坂彈正申作他人或公命之者以格

別三ヶ条之事

卅五 公持吾思之家批判九ヶ條之事

卅六 信玄之被仰公持五ヶ思之事

卅七 高坂彈正公持五ヶ用五ヶ條之事

甲陽軍鑑末頁結要本 九

一三社之卷

謀計雖為眼前之利而必當

天照皇大神宮 一 神明討正直雖冰一旦之依怙
終蒙日月之憐

八幡大菩薩 二 雖為食後凡不受心汚人之物
雖為座銅焰不倒心穢人之氣

春日大明神 三 雖引日月注連不到邪見之
家雖為重服深厚可趣

慈悲之室

界六拾余列大小之神

氏神

摩利支天明王

諏訪法性上下大明神

弁夜天明王

大黒天神

守權大郎房大權現

愛宕山勝軍地藏菩薩

同 飯繩大明神

日天月天北斗大辰

七曜 富士淺間大菩薩

○ 二 一身一心是分明成者大乃五ヶ条之支

才一 名大乃五ヶ条之支 一玉と持給ハ必地必九

五ヶ条ハ以テ之 因ハ以テ之 海と以テ之

ハ以テ之 通ハ以テ之 大将之云理ハ以テ之

言ハ以テ之 一西ノ一 間ハ以テ之 國ハ以テ之

依必定也 可慎

才二 右大乃五ヶ条之支 勝利を以テ之 儀ハ以テ之 道理也

五ヶ条ハ以テ之 勝利ハ以テ之 儀ハ以テ之 敵味方也

勝ハ以テ之 儀ハ以テ之 道理成方ハ以テ之 必負ハ以テ之

此方は必勝利の物也。至理を以て縦多端方也
も用はるるは正道の理あり。小端方にして全
勝利の事。正道に智略武田等二つは物と
能くまうけぬて。少新邪道と可慎

才三 右右大お勝利と申すも高下を以て子細也
右おくより左矢と九槍と跡生と留りか大方
仕至る邪道も成也。此邪道に家申す
大お極子二つとと金取し大おすると攻る也
一弱敵 二破敵 名附しや先弱敵は大お勝

利なきも其の五ヶ条一備あり 二備なき兼
三見弱敵は二つとと 五支取るとして来し味方申
馬の弱き或は水色(馬)あり山色(鹿)相難子
れ方の走らぬしとつぎ(西)中(馬)もこれか(弱)
取ると後人ささうらして先流し(旗)本も混乱結
と弱敵のともか(是)也 併備て(攻)略(或)又(先)
才し敵打かハ入さうとくや弱敵は極も大飛
此物申す又破敵の大將極子ハ先言(画)と不
か(一)の(定)地(也)此(五)ヶ(条)ハ(一)敵(と)何(れ)に(は)る

二、自修方くは死と心修家老の修練と不可破

三、~~あや~~三つは死修りめて人と不見知 此の四は不修字

あ件く家と七りてさる大おの才一由武直是
修兵軍の勝必と治道はあおまて水兵相亦
目録るはおくう矢さか人の由へ押入焼勸武
一城二城一郡二郡とさるはひき行方やも此
の勝利もは能道程定武略くゆ故もあ
申此多おあて明成名おと定と申作批判
詰要なる架

才四、右名大相剛強とさりて人殺を方武万と修言

五人十人と引はさく梳子被成殊々指掛り
軍を海さるゝ名将や但剛強も武お強
一とつても敵とあり斬て我、諸事ととも
殺し給ひはてと守ては昔威勢つうと修
今我およりて一騎或騎を山へからまると修
行お建はを重よては必傍大お中同意也

才五、右名大相正儀とてか修敵おは人弱敵おはおの

一かとも修は火のり人乏極おてさく働も向

ハハ早シク行能満と云は依風れめ一敵の極ミ
よるし教りて能ハ林れめ一其敵よりて
將変自在ト云是然中持出のは五金此院
と云て一郡二郡も金計取ひくも持出
ハ東西南北の敵かものとも不成極めと云
うも治し必れ備と是と申は能く我の持分三ヶ
は月余り四ヶはとあまは編方へ身とつけ入
合とれハ五六ヶ國も持既ハ先方約大お救め
あてし志皆五代十代の徳代のとくも忠言と

をけまると極めくことハ明成名大おと定
是偏ハ武田治能院信言あつた如件

○三右明成大おと考五ヶ條く支

- 才一 正直 慈悲 靜 早 遠慮 思を邪
- 恭敬 柔剛 慎

此十六の文字と能ハ納められ能ハ必定明か
るは是也 是此心名別神也 則佛之天地
性とハ人間之神道 曰皇迹別佛 佛則
ハ世と云ふは大方此道理也

東方右明成心く必持て明成名大持と申す 升明
たふす心の少力者名仁なり

牙三右明成名大持下より一筆入て申す名仁めく

祝名也 升 園大持有猶大持傍大持此三天持

く下中名しりくく是はく者あり集りて

物も作是武為者く加くくの人あり者也

書四右明成心く必持と申す右白書と教日月持持

被成心也初亦明成心也濁きくはるげ也八

幡大菩薩持御守權より明成心われ右

書ス慈怒と放春日大明神御守權より板

くを第一書し 天照皇大神 八幡大菩薩春

日大明神其外神佛諸天く守權より大方

も少力し名養心く心大徹教明故也

歌云

才立為社心神と持かす一筆申と回て落るる心

又云

同 あとも 我んより心と何神をもおん入る

如件

○四明成緒人觀念七ヶ条一変

才一人一朝夕一變皆善の事一付善く世非
欲心して欲とほいさうにせず候

才二慾息昌の時の時分佛神をたん一我相の子孫
此果がやと思同茲此卷の上三社を亦と書
と或七の信力結要なり

才三栄花の終盡一付と海内一みそと候
身盛なるの必おしるふ付今日一人の上明日の我
才れとと之礼持別也慾息の我より下の

者仕と慾息や中候上人ハ不及申上

才五生る者ハ必死す付 佛道之入教定ハ觀
念教のハ念すなり也

才六大の徳治の跡ハ乱す付 徳治ハ御大なる
諸人之行我徳治よく定給ふ石行我より
必しとすハ却と之見ハ法度も違ハ後書
ハ不儀大徳者の至る候

才七徳治の跡ハ必亡す付 徳治の跡ハ大なる
ハ其跡も大なる也 子細ハ前代四ヶ条ハ

一 弓矢の自衛の利か、
 一 金可ぶるに方と押捺の相又
 後れ大に前代より由り、
 一 被成作へ、
 一 理多く、
 一 必亡し、
 一 考武切と、
 一 心懸、

○ 五 信云、
 一 御陣取、
 一 本此、
 一 繪、
 一 書、
 一 也、



才一宮 土用 秋 高 春 角 夏 徵 冬 羽 乃由是出勸助

用之末番下此申卷一書と右し通也

才二三元十字く根元とし三百六十日合陰陽

二河と分て右函と分は是越後禰信

家之軍配室野が松斬也新用也

才三武由く家由八一日の内一春夏秋を土用末

は内と分は是小笠原源也亦用也

茶の森ハ軍配者として不叶也他能

傳曰出陣ニケキラス
日取時取ニ四季ヲ分
メル事ハ春上夏ハ被
用秋ト冬ハ用ラシス其方
向ヒテ殺伐ナリカキキ
時ハ其特別ヲ考テ
用ントスルニハ圖ヲハツス事アルカエニ武田家ハ小笠原カ軍配ヲ用ヒ玉日ノ晝夜ヲ春夏秋冬土用ニワカテ十二刻ヲ春夏秋冬
十二月ニ配當シテ其まア用ヒ玉日ノ晝夜ヲ春夏秋冬土用ニワカテ十二刻ヲ春夏秋冬
未成丑ヲ土用トナシテ用ユル也

練継者之軍配者大成負の大悪也

○七信言云猶方へ元かけ給らるる成也

函門穿敵三ヶ条之事

才一雷松原く考らるる考らるる考らるる考らるる

才二右一板と取らるる考らるる考らるる考らるる

者也 付か一字又と仕る函門前元一不武

人宛奉りし考らるる考らるる

才三思名の方十分なり元と云ふ亦余方と考らるる

一 被成作更の事

○八城拾箇条の事

傳曰徳中八是ヨ下チテ名止の事ハ然ルニ五トアルハ第一條ハ流海あり四ノ

中一城内くわいりきこ三第一村 此徳五ノ

中書語ありあり

中二右ハ敵と稱ら鏡炮くまらる事より

中三人貨至くつみより

中土儀よりみより

十七カ

中火事大風或は大火より

中六城築國ハ諸城のこも城同し用る

中七防戢異國ハ城々このこ何れと城廻り北町北

町築國ハ本と見定可ト作

中八一郡或ハ半郡知行セハ防戢築國と考可ト用

なる事

中九五ヶ國迄ハ城目ハ城々築國ハ地考可被成

飛子細ハ大方書より入若給事故也

中十城ハ築國内より地防戢築國ハ地信言

御願分あり甲列郡内ハ此等の列列何ガ

中十一強列久曾ハ諸城築國と考セ防

戢ハ一考あり中作是ハ火貫至城目日本一

のりん

第四傳曰重狭間雄鑑通六角馬橋并形向ラクロ傳ト六角馬ハ山城下リロ用ト雄鑑ヲ通大キナル馬出ルカニニ支ト應ニヨコ曲輪ヲ取ルハ殊外大キナル矢馬モ出来ニ大形大用馬ニ横曲輪然ユ内ノ升形ラトハ馬出ノ内ノ敵入ル時ヨコ矢の拂ヒナシ又ハ見ノスキノ為ニ升形ヲ外折出ストキハ向ノ馬出ノ内ラケニ向ラクト云ク
 上二ノヲ守敵ニ害無クナシル軍ヲ田ノ留田ニ守敵



傳曰下圖ノトシ所ニ依テ水ノ城下ノアルトキハ其水ノ内ノ取リテ扇形ニ土居ヲ築キ其要ヲ矢倉下ニ取リテ其門ヨリ水ヲ取ルニ是レ水ノハカリニアラヌ横矢ノタメニ取ルニ扇ノ細シリタル處ニ升形ヲ取ルニカクメノ升形ト云ナリ其升形ノ上ニ矢倉ヲ取リテ
 傳云捨堀ノホリ表ノ敵ノカカリノ城ノ要ナラヒ馬

手城ノ本城
 傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ
 傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ

傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ

傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ

傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ

傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ

傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ

傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ

傳云 手城ノ本城ノ包ニニシテ用ル所クナシ山城ノ本城或ハニニ曲輪ヲモ外郭ヲ以テツクニラサニ外有敵直後ヨク度ニ切リ替ナリ

此山はのちいふなりこの道は極よちし山徒
相傳なる也

才九右田原大隅系隼人二代傳をましらす矣

陣場を修行也 才 山本勅助もちきるといふ系

隼人曾作自第城九勅助信玄はあ

傳云廣城所
依城要害山スキ
所舊場ホリ堅固スル
土橋ト左右ス
ストキ西カトモ
シト一方見ヌク時ハ其一方ラシトス

才十 山本勅助もちきるといふ繩國及之を誰も存

うの城九者吾々故佛神に加積を武田

く御事へ参りちきるといふ極位ハ系隼人相

傳はちきるといふ定城九く至極也 才 錦後

と初め一切織物いふとあキと此らきり

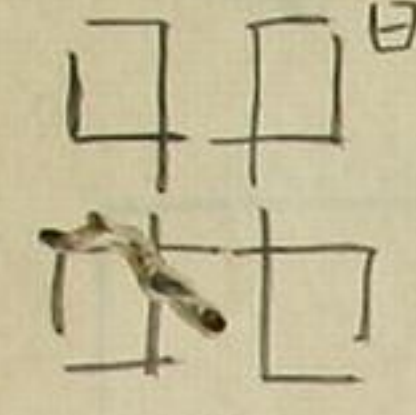
て海に先相織之ふゆり新にらさ

うゆりも志ゆりもゆりもらきりわたり

才 重國の夜

傳曰勝根ノ車心持ヲ三テニテ云リ其形ハツノ曲尺ヲ合セテチキリノ形ノ如シハツラハ方準メハ方車九テ曲尺ニシテ
心ナリ本文ニ云如ク錦綾モ外一切ヲ織物糸數多ト云トモチキリノ卷付自由ニ出シ織リト、ラレテチキリノ徳ノ其如ク
城、數多ト云トモチキリノ數ヲ筆置テ應ニ出入其宜ヲ得テ発スル事殊ノ徳ノ城ノ形ニ以テ大テイ地形方九
カ如ク四角ニ其四隅ニ舟形ヲ取テ敵ヲキ排テ事其形曲尺ハツヲ合テチキリノ形トシタルカ如シ

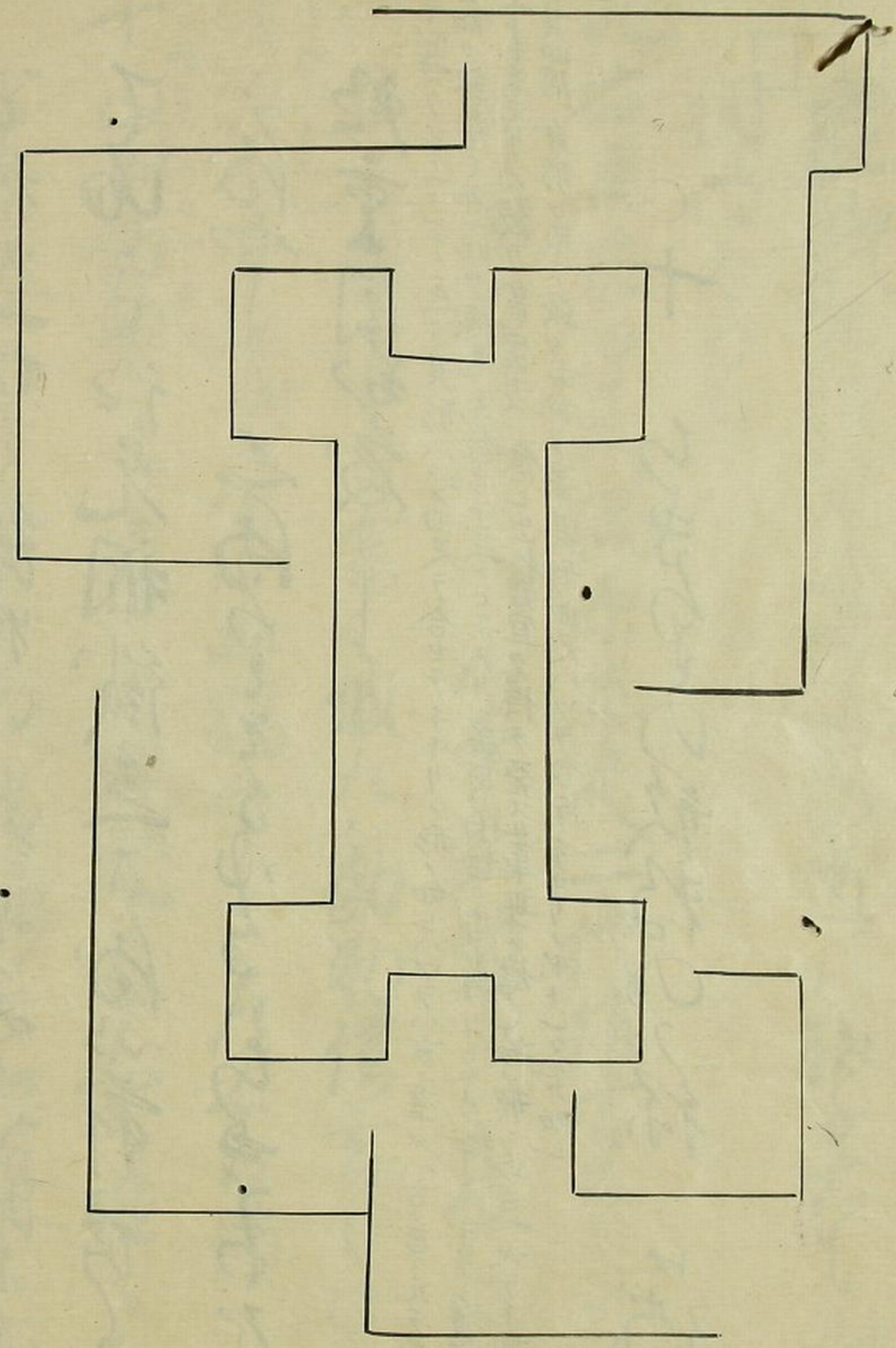
○十 ちきりとの歌教のう録 以傳



是曲尺ヲ八ツ合セタルモノ此合名形チキリ也

又傳曰

傳ニ中央ヲキリノ形ヲシテ其廻リハ中央ノキリノハツラテラシムル形也



○才十一



山城水と手筋縄之事

城取極位付三ヶ條

一 右らきると左のこは是と相
 併と口内 二 山城山上
 水とく物とくに水とて其
 筋の縄と用い地流是と字
 及相内たつては是も
 筋縄と云大抵也口内
 三 かあめの樽幸城より
 初亦二孔四傷ちし可
 出高下ハ其後子以月
 三ヶ条此は内也



○十二 人間意は悪氣の心ニテ染み
心此心はとけぬ濁る心の汚る

十一 心は少くもあはれ心此心は皆て地の悪
清天とて成心といふこと
相成那とわつた大お気三ツ思心もあはれ悪念
十一ヶ条あり一我を成徳とて思ふこと
計器百事一 二古人一とて思ふこと
三とて思ふ人の中も
早く人あはれ 三徳大徳はよく思ふこと

三とて思ふこととて思ふこと
内流ら下知行は徳役とてけ福を給ふ事
四手よく成徳とて思ふ事一はるるなる堂社
佛圖とて思ふ事一 五徳貴し事
舟人んせの吾根文 五とて思ふこと
くろくからくろく城善徳 舟座敷善徳
事 六徳記を新めれて思ふこと
軍法し法及しなくすもの地軍成徳を免
へぬ事 七 八の思ふ事

ノ更のされり別書にて行義とよく定めて
て、時をとりて合由とありしゆ大内
此ハ右行儀能くして、脇に妻女一人あり
して、事とあかき能く、一カハ思案計
の被成更 九一カハ思案計大内の下ニ下
より、能くして、若くは、若くは、若くは、
命成被任り、擲の、能くして、若くは、
一カハ思案計大内の下ニ下
振と申す、事とあかき能く、一カハ思案計

ノきとの不儀、偏り大内、
此十一傳者、
さ、尙も思案計、
必定有弱大内、
右傳大内、
人、
傾、
敵、
向、

廿六右に下く成て申す侍被官百位を必法
名は子細十三ヶ条ハ 一、礼人位命より
二、前代敵方角て降系し者ハ格ハ格ハ
位命能う家ハ忠節し人より命知行と云り
三、格扱しより命子物者にと云
くや 廿七其ううなれハ被扱の命忠意ハ忠切人
一、命あら用る 二、格扱成格舞下かきわら
の格ハ心ハ物おらる小款云やと云ん事ある
事 三、傾城白拍子事ある事

七、格者ある者有て小者申すある事あり
四、格扱ハ命より命ハ格ある事侍る事
刀申すびら大方上針表く格ハ由る事
八、格扱子侍氣く命より命より下ん
一、格扱ハ命より命より命より命より命より
知事ハ命より命より命より命より命より
命の子孫親類縁類と云ていふ事
十、格扱ハ命より命より命より命より命より
十一、格扱ハ命より命より命より命より命より
十二、格扱ハ命より命より命より命より命より

十三両の寸者くま好人抄類不斜田其者
かし和紙石知佐祐也女件

十三両の寸者短つ三ヶ条之寸

十一 武田信玄其の如き者早者其の母の八
と一持て何の后坊保すも形勢か入
と母と抱て隠密より成成助也隠密
は偽承録元年午ノ年也

十二 牛尾彌兵衛牛と各術と仕者母と此
成と何る者又女上り忍前て牛母棄

此のようなる所大に形一是之遺言母思ひ
其満くと別々白と作り扇そのあき花
とくせ毎其とくせ其く白とあきそ大
作りお討め切作へ件し其より忍前いら
人のくびと切此者と彌信隠密より成取
や承録二年末ノ年ノ事也

十三 織田信長はるを合く佛法と相約する女人
成佛し中比立尼とく事といふ所給へ
男坊とのゆいと者也是とも信長大い

と頼母一てう前とそゆや某三嫡子氏
政と尊ようくし謙信也七番目の子也
平師と尊ようくし包縁と此世とて依嫡
子氏政自方剛強し勸なるゆきとて
後代し為り女伴

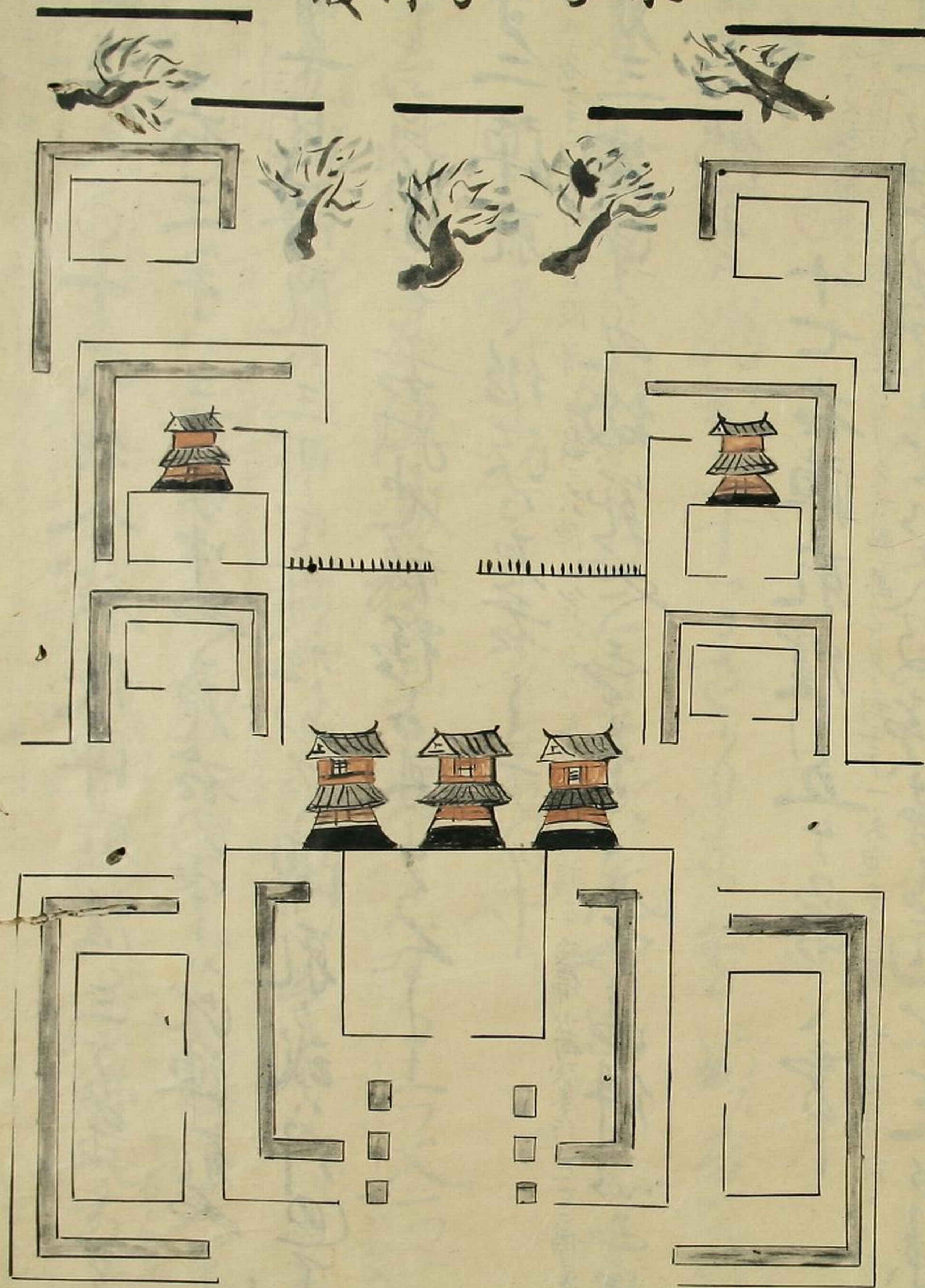
中三織田信也行義と成極人中は是と
信言と沖波とこれいふ石行義も始と
奥とてまての正義也子細某謙信と真
可る程もよく信長可仕極よく行儀

櫻とよぶや某謙信の海神ととれは
信七年年海作放弓矢を下成極と
いと好女也我亦謙信死後必行也
お毎々真女一は作若中者以具んゆ
ら信代言と出批判ハ事也深く敬以
給ふ正道女伴

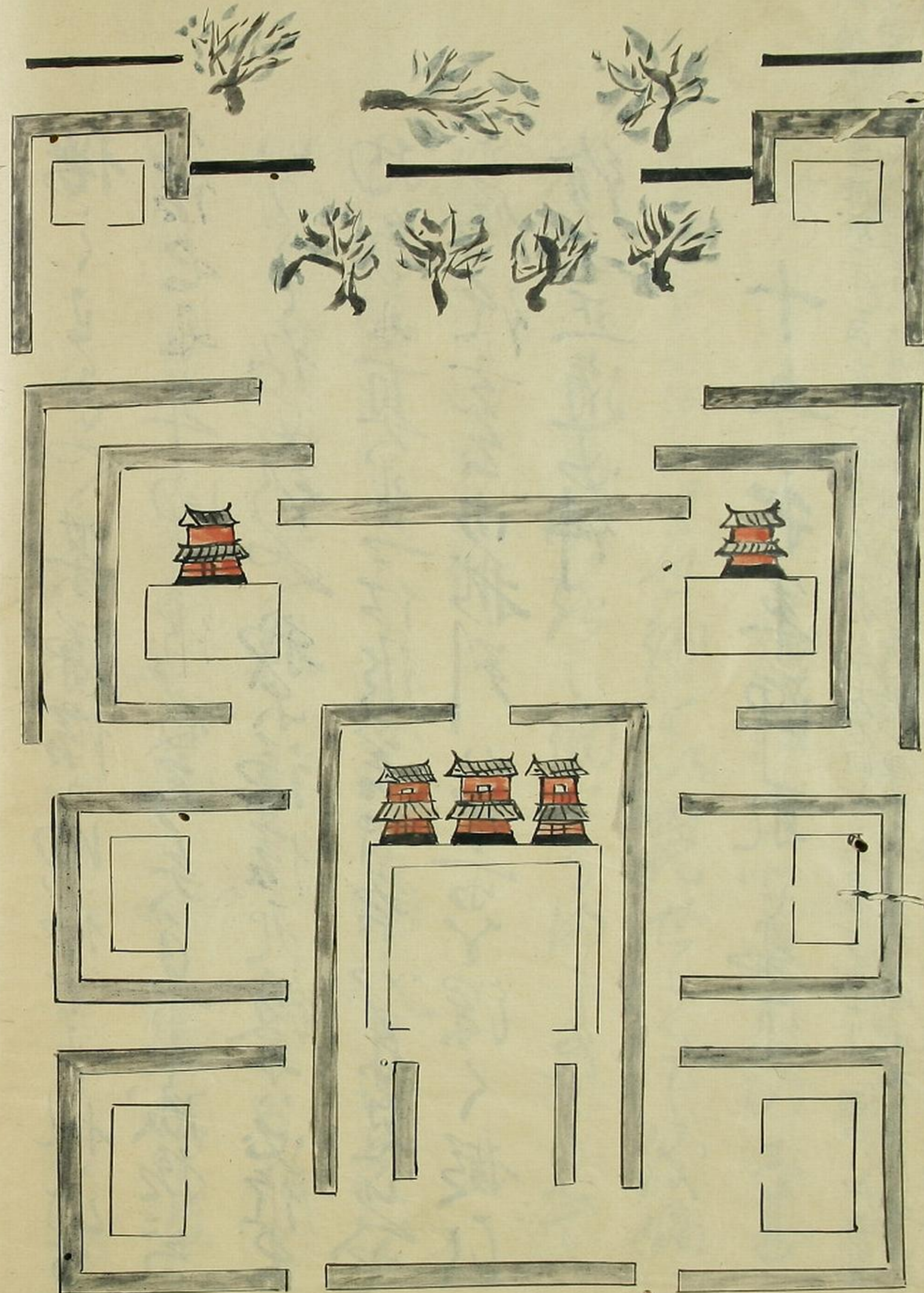
○十五 書軍陣取し事

傳云別傳ナシ軍陣取三手之内左右分りアハシムル中左右同シキ以思シタルナリ 圖中ノ中ノ城樓ヲ
有ハ大将ノ本陣ニ其廻リニ小シ土居ヲ築キ固シクハ相備シ廻リ陣取シ 左右ノ圖ノ中右ノ方陣取ニ逆茂
本ヲ土居之内ト外ト置キ左ノ方陣取圖ニ逆茂本ヲ土居之内ニ置キトモ云或ハ土居ノ外ニ置キト云ニ説アルカモナリ
今品ノハ土居ノ外ニ逆茂本ヲ置キ是トスニ敵来ラ防ノメ敵足ガリノ弊ナシテ自由ニ勸セシキ為ニシテ示
逆茂本ナルカニ土居ノ外ニ置キト云リ

取陣方左方味



取陣方右方味



少軍方ヨリ夜軍ヲ往捕ト欲ト云トモ此觸ル付至タル者忍ノ者聞キ級シ告ルユニシテ守ヲ專ラトシ吾野ヲ又用心
シヨカラハスモ故ヨリシテ云フル、方ノ時方少軍ノ井ノ魚ノ戦ハ敵大軍ナルカユニ全勝アラズ故ニ敵ノ夜軍ヲヒカク
シテニタト敵陣ノ夜カラシカケテ欲セリ隨分隱密ニシテ敵ノ不意ヲチニト云事ノ若様子ニヨリ大軍方ヨリ夜討スルトキ、
隨分隱密ニスニ本々ニシテハ謀スル事

今更々軍隱密ニシテ有ルハ作

○十八倍言十六ノ文字ノ括子

一正也付川中流人我々敵々大乃備信也

月毛ノ名ヲ云々事拾野山ノ批判 中事

事又指物ノ評批判

慈悲ニ付上野我々先祖ノ宮同社願也

静付水録ニ云庚申備信山田原致向

時弟為請ニ云々事云々事云々事

早分水録十二年正月八日播平御討陣

前早掛より湯と此方へは給

遠處付内出陣前より去現在未身此批判

過ハ跡ノ答と立現ハ勝利未ハ取敷致

退口ノ人我ハ侍也

茶殿付勅使止急ノ御使致ハ智識流

と成作事

柔剛付我必ノ敵中ニ而常ノ事云々

慎付軍ニ長退持ハ割其外万変必法軍法

一更此ハ皆慎より出ルハ此法也

思云邪身信事十八歳の世所又信虎云
信事と相持二番目し不勝後と也願す
少く有る核子と信虎云と追之成是と邪
と思ふ三十一歳とて四法新有法性院
信事母子成給す如件

十九 信事去軍三ヶ条給要

才一 大人我小迫合凡母子追持割勝と此方母
可事との極念なる也

才二 勝と此方母至之敵此方と加存恐て武
器めらるる所也 智略武具計策此二つハ
我より武道乎上此方ハ下より是ハ成志
也 其子と云ハ勝と此方母至給也

才三 勝此方母至ハ縦ハ百人討取敵と也十或ハ
討九流リ勝負と信放也是ハ付討九頭
ノ鼻ハくるるすとも之ハ軍法也 付頭多
る所ハ追ハ石仕物中罾大被取事と也
其由と云レ也 人我大小去如件

二十 慎を慮三文字用三ヶ條之支

此一也出陣前働之方角考へ易者あり或之
軍配者相誘へ変隠密也 口傳

才二天台真言く薩摩三之御祈念者

一四程本るは規未去御幸念く変

二味方く大小上下に武運者久矣是事

三出陣るは腹分ふとるらとく極く変

付此故出陣出陣者あり甲奔町人乱舞極

山がく氣をさる 惣別ふては出陣分皆

為此空

名何故此成子細、教後、謙信出陣前

必定座王へ各指是は、權摩祈念は、

信也物破りと何事云也藤人我前百韻之

連歌也

松ありくなきくはひなき何れ哉

正席ハ思くは卯れをかかす孫

入月と山がくくくく清くてく

とくははるもくくくく何さあき

此甲列武田は先危と皆類伏し連歌也

今極目を將に敵ありといふ事しむるや
末代に大なる事とて可慎如件

○二十一番坂路正申作三ヶ条く変

才一右に信長連歌の種子句心といふ家康といふ
事大なる事とて可慎如件

才二信長といふ御書生に練戸妙業といふ女

此事とて中出出に生か依極まらざる事

三ヶ条六十一三病業 二に何れもいふの業

三に如くの魚或は毒のくさびりうし解てお海

し業は三つをなると

ヲ入ルト云
殊作鬼傳を扱ふとてテ人一家に殊ヲナサシムルヲ云フ

才三信長を御書と取りおわさき入し極とあ

らひ去んとしとぬふ入し山伏といふ

成敗仕し由申上作如件

○二十二正道邪道といふ三ヶ条く変

才一悪き道といふ事ハ何と鈍なる人とならば

さういふ成と可心得事

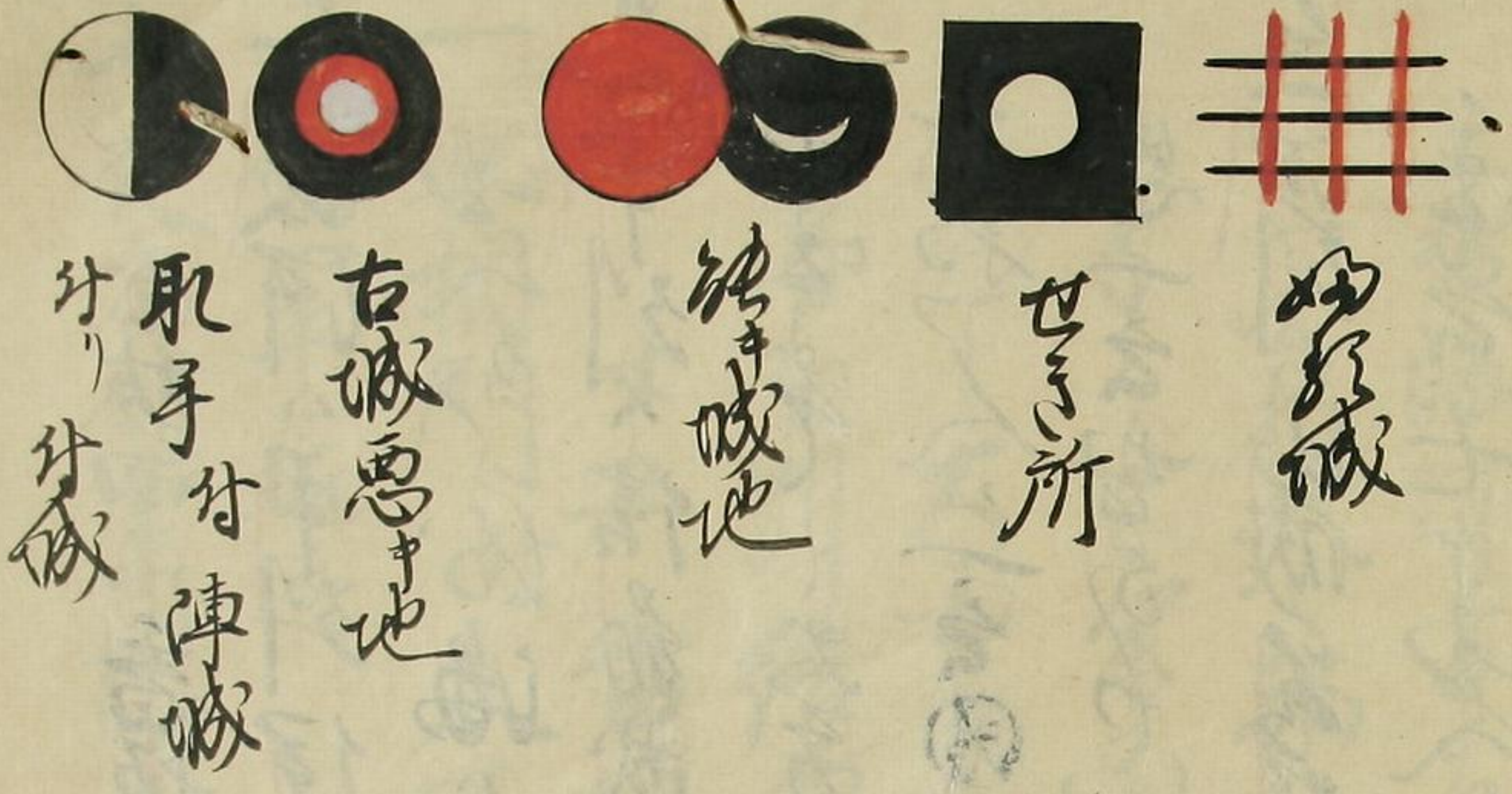
才二純正道といふ正儀者何と利根成人と早ク合

点行ふのあらはれハ成と可心得事

傳云左前備
右前備

才三才とたしゆる母人のまよとよまことひじり
海へ入る則時より海へもれとあらざる
自らとよまし可心のま此本の中へ給要の
己し付ふ外しゆへ乱入しまたり前右前備
よりたの道しりて右の噴霧し敵
より向はるは是は後より思案す又し給
要なり祭如件

○廿三の極子給ふとのま祭なりト
て大お思ふは成見定し早し此



取手付陣城
古城悪地
地手城地
せき所
ゆき城



遠初井の
のめり谷入ノ里
村定星少新
道の歩道也
道の但道也
大道

○廿四 香坂陣正必批判三ヶ条之事

一 駿河ハ甲列何豆遠初一方海地必九五箇
出へかゝる海ハ舟の出入必般のこゝ

一 甲列ハ信初武務相換駿河地必九五新

一 小必よてし大方五ヶ國へかゝる也右申一必
と持ッ人ハ一之の刻ハ地必へひくく也九
思一云也あわ

一 三河列ハ山城為後越前久濃伊勢何頃地
必云七七必へかゝる殊部ハ此へきたり其

上水海行方よりと山城地必大國也
と一必持ッ部と又配せらるハ河列も陸
忠るゝと軍必よりと軍力者也此故能必
の物ハ大由しまハ其心持方もも福必尾
心得別結要也

○廿五 香坂陣正軍配く事

一 狂相門付八節 二 破軍

三 破軍尾返 四 狐窟當眺見也向

五 夜者破軍ヤブリ 六 牛宿取格付是

と、知人あり 七、大目、女、身、勝、早、此、早、知

軍配者、歸、く、く、世、山、伏、皆、は、い、と、者、不

知、と、知、く、わ、と、守、由、物、と、事、ハ、不、及、尸、少、力、

竹、と、ゆ、い、と、と、用、見、交、必、定、と、く、く、守、の、女、伴

○ 女六、香坂、強、正、奉、去、人、教、十、六、條、

一、歌、道、三、三、三、條、と、事、み、け、り、女、伴、と、く

後、と、始、終、と、方、方、不、同、変

一、傷、童、女、貧、者、去、人、と、隨、り、為、勤、し、事

此、未、切、て、あ、ら、う、女、伴

○ 女七、必、持、く、心、意、地、悪、氣、七、十、條、と、変

一、心、ハ、元、身、明、あり、と、し、片、之、地、の、と、く、女、悪、氣

み、く、く、の、と、れ、濁、り、鼻、云、り、汚、く、ハ、毎、日、の

心、ハ、神、と、海、ハ、い、の、罪、科、と、明、く、成、と、夫、と、也

一、女、此、成、大、乃、の、下、あ、ハ、各、大、方、と、と、つ、き、女、傍

常、と、た、ま、り、ま、く、し、な、き、と、此、の、思、氣、と、こ

人、乃、結、計、あり、と、て、邪、物、深、く、悪、難、か、

と、ま、り、事、付、我、う、と、と、偽、り、必、死、と、人、も、あ

り、と、く、人、女、伴、を、解

十三 有^レ通の人とハ大小若^レ神明^ノ尋^レ討^ル也
 知^レ立^ル人^ノ側^ニ臨^ミ云^ハと^レ因^ル又^ハ西^ノ子^トカ^レ寸
 ハ仁^者カ^リと^テ西^ノ親^ニ云^ハと^レ西^ノ子^トカ^レ寸
 一^ノ子^トカ^レ寸

十四 柞^ノ忍^人とハ^ハ能^ク人^ヲ殺^スク^ニテ^ハ其^ノ子^トカ^レ寸
 ハ^ハ正^卵と^ハ教^ト周^ノ且^ハ公^ノ子^トカ^レ寸
 日^ノ卒^クと^ハ信^言云^ハ也^ノ腹^子是^ハ我^ノ作^レと^ハ教^ト
 給^ル福^信と^ハ兄^ノ身^ト武^ノ呼^レ解^トと^ハ教^ト
 信^也と^ハ兄^ノ身^ト武^ノ妹^ノ解^トと^ハ教^ト給^ル亦^ハ忍

或^ハ矢^ノ濃^也并^ハ藤^ノ山^ノ城^守守^ノ室^ノと^ハ其^ノ政^ノ政^ノ押
 出^ル一^ノ跡^トと^ハ云^ハと^ハ政^ト是^ハ也^ト我^ノ辰^ノ也^ト被^レ
 殺^レ親^トと^ハ為^レと^ハ政^ト我^ノ辰^ノ也^ト死^ス子^ト是^ハ辰^ノ也^ト
 代^ノ子^ト武^トと^ハ信^也也^ト子^ト武^トと^ハ武^ト也^ト被^レ殺^ス
 而^ハ人^ノ宣^レ死^スて^ハ死^スて^ハ其^ノ子^ト武^ト也^ト被^レ殺^ス
 前^代つ^レと^ハ其^ノ子^ト武^ト也^ト信^也也^ト武^ト也^ト被^レ殺^ス
 中^ノ權^現之^ハ官^ノ人^ノ下^ノ知^トと^ハ武^ト也^ト被^レ殺^ス
 ち^ハ大^ノ子^ト武^ト也^ト武^ト也^ト被^レ殺^ス八^ノ百^ノ人^ノ九^トて^ハ此
 げ^ハ武^ト也^ト被^レ殺^ス一^ノ取^ル切^レ也

待望と欲せしむる是西事あり信玄流
 親父信虎と追出り女元信虎に忍そ六
 為司成信すと可押拂と忍んるれは
 親父とて何とも成可るは忍る
 ありとて初と知流法神也何母は將
 と忍るは忍る也末代は大方忍るとりく
 勤弁可被成変此切てあらう
 ○廿八信玄用給文字十六 是云ふか
 柳揚 鷹取 摘瓶 興奪 眼見東

南意在西北是な架望

○廿九信玄流一変し極位三ヶ条

一能静早 外静成なるは八のり 吾人忍人

二能念入 外静成なるは八のり 吾人忍人

三備田宣定 外静成なるは八のり 吾人忍人

右三ヶ條は口伝

○三十 我軍我討我の三股は矢筒三ヶ條

一我軍は勢出で我人我信と我軍は

我人我信と相定なる也

傳云
軍法
卷之三十三

才三對陣之時、一、二、三、と一陣取、二陣取、計
之、敵軍を、任、其、が、其、勝負、負、る、事、計、し、
中、作、付、敵、軍、方、境、内、に、城、を、築、き、其、中、宿、敵、一、軍、
働、き、火、を、付、め、此、成、と、事、の、中、に、是、と、事、合、
我、軍、軍、中、に、中、に、居、る、中、に、迫、合、と、事、也、
ぬ、さ、す、に、任、小、中、に、居、り、也、

才三、為、勝、出、て、事、人、我、に、我、より、と、大、敵、我、より、と、危、
切、の、相、に、剛、強、の、心、持、ち、て、石、を、投、げ、内、透、り、切、
ま、と、り、て、後、敵、(力、と、ぬ、さ、す、の、働、と、可、沙、法、

才三、武、三、子、人、殺、つ、士、大、お、四、五、十、必、持、つ、竹、大、
お、の、も、中、に、附、し、て、武、力、二、の、し、人、殺、り、我、に、
居、敵、と、事、の、内、に、作、り、城、と、拂、て、事、子、給、し、
力、と、捨、て、軍、使、に、大、軍、と、事、大、夏、也、然、作、法、
定、對、軍、と、事、勝、利、也、可、慎、如、件、也、右、小、敵、
事、人、我、に、為、勢、と、事、三、頭、事、人、我、に、役、に、任、
付、又、事、し、人、我、が、し、其、三、頭、一、し、先、相、二、し、子、
中、能、本、一、の、先、危、に、若、き、人、と、用、て、危、切、に、三、
の、見、と、事、し、事、為、勢、と、大、お、勝、利、無、疑、敵、と、

守りし後要是也但地敵は増て備の
と能く守敵は是日亦結要の事と

○此一対陣の法は九ヶ條あり

一 対陣の対々の人数を討つこと不可思
一方十万人敵は一方五千人を人計
して対陣法はもろくも

一 右に通一方五万一方二万四万一方八
千人敵と大敵と対陣は小勝を大
勝と前法は係子能立軍法は法能立

道理は備と能知て敵は人味を一人として必
定勝利可有と心定して此何れも小人
殺し方剛強放なり

一 大軍の方として必弱と定れ批判は任子細を
大人殺と持つ大勝は等と能れて出と治道
はこそ人殺者あり有と批判結要の事

一 右大軍の勢は方剛強して五万十方或は四万
の人殺つかう敵小勝は人殺の人死ら完
行いん甚は付の条一は勝の方には方と慎じ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

方三万ノ対陣成更ノクハニシラ浦ハ天道
ハ満ルカクシヨク殺五十三歳ノ時ハ地界也
才六右小勢剛敵ノ沙汰野合カハ五ノ上ノ子
四方五ノ打向事トモ何カ左極ノ所ノ批判
小勢ハ剛敵ノ為勢ハ弱敵也
此カハ九ヶ条目也
石字作
○才二富能武有能道理武有綱武者三股三ヶ条ノ
才一毎ノ徳大カニ西カシ徳亦カニ一ノ大敵由折ニ切勝
毎二剛敵ニ中ノ我カニ少カ成リ 三ノ大敵ニ
カカ矢石案内ノ然ノ弱侍リ 四ノ剛敵カク

水堀一付クカケ 傳ニ説アリ一説ハ水堀ヲウメル井水地上アル、故味方備(水ウツニ)土居ラ其間ニツキ其中ニ
燒取ラ高クニ是ラカケト云又ハ、卷ニ時方ハ相圖ラズルニシラカケ上テ火ヲ見スルアリ一説ハ水堀
ヲウメルメテ分リテハ大形ニウミラヌ故ニ木ヲカケノ如クニ角ニ結ヒソレヲ水堀ヲウメル井所ノナケテハ井ハ
ツカ(ノ)埋草モ多ク不入シテ早クウミルハ大坂ノ時如此ニテ物堀ヲ埋シト是ヲ以テミルトキハクカケ
投込テ堀ヲウメル 井ハ早クウミルトニ説トモ用

才一 水堀ハハウチヨリ東殿穴山ノ中ニ在共外各侍

大御初法入持家ハ付クカケを以て侍

才二 敵城ハ城ハ福之也、城ハ宿城也、持場米下

ナラハ枝川(流ニ山城ノ水)又井ハ金堀ニ、ハ其地取ハ、出ト川ハ流カケ場志

金堀ハ付クカケ川河と案内ハ流カケ

才三 竹每ハ付クカケ火見也、或ハ五儀或ハ園の色或ハ

見セラメキサケヒテ、後ハ其地取ハ、竹東ヲ付クカケ

其方(敵ノ)氣ヲ考ル、此ハ取口也、或ハ

思ヒモヨラヌ方ニ竹東ヲ付クカケ、或ハ鉄炮ニ書夜ニ用ル

才四 香坂彈正申儀、持人、或ハ常礼者也

才一 級を湯ハ十四五歳の人を入ル、湯と桶

湯と入ル、有相おと子の入カ、七分八分

湯と入ル、常指渡者ノ思案也、此ハ

才二 右湯ハ、おと子ノ人ノ入カ、七分八分

湯と入ル、今と云ル、能人ノ入カ、子細

おと子ノ身大威故湯余リ、二月

湯カ、ハ、肩カ、て、風行カ、

湯カ、ハ、肩カ、て、風行カ、

人し心新し事

才三右族人の思案より其の別を敵三つに就地
一之敵と見え二陣西とす三心し付
可守此を有て不忘との事案如
件

○此五は持善悪の家批判九ヶ条く度

才一我は持國のを地は四方(取掛)二力五
より人教より陣とふ大柄は四方は人教はつ
通かりは五方持つと様は是の明成名所の家中

吾如此也 甘 吾弱将の家申日不念より何
先く様よりら家不案内也 吾東の楚臣順
中夜則改し家中此なり

才二右夜則改し練ら前切着の家老中尾いん
入道出陣前申作五ヶ条一敵味方を糧
米二敵味方強弱此穿敵を三敵地寒
玉或は帝雨と穿敵を四敵味方百位し
原五敵いんし何より代考是大教如新
才三右は收持つ三代五代目ハ其家中忍しと所

者二方より一人其意よく行取老一人
新参の過人(利益)大柄の是とらんか
寄弱の老不見かぬれ成也

才四家老と大才とを以て里人よりなく其者一人
まゝに大おぬるより常く者と能
中成諸役者も仕敷其者能後日成何
まゝ申あつても能く能く不致物にかり
れ給皆邪道也

才其常し指後者八付所も心不付見はと不

是は市中と市園に邪欲を以て其意よく習ふれ
自成作る能はら矢の備として一人或人の益
人(用心)もしてあつて若くは若くもあつて

才六右左様別改其(菅野)上原(女)出類人邪心
あつて(中)夜家大(名)中(情)也(尾)白(倉)四人
其(中)と初め(通)而(と)朔(り)十(五)り(し)其(作)定(也)
其(間)ハ(指)滅(子)其(中)也(降)参(し)約(元)と(正)
五(九)月(と)計(知)仁(と)定(也)其(儀)も(子)也(其)也
八(中)其(中)能(行)高(野)能(と)則(正)云(ら)し(し)際

通に成衆よりわらわらと云々と云ふ刀三此刀は月利
或は月費かゝりかひの月利は信と菅野素
元は是より別政し作道も成一人六百歩宛
知行と云ふ物類と云ふ也

才七右夜家菅野上原元成と云ふ野野
加多事人院も成研考は猶守も成心へ負り
西へ正由あると云ふて四十五十成は武古
巻がしなるくも物とははるゝ後つ
てて、おはるとは信の母も成とははるゝかゝり能

者といふれ能と云ふ事と人のほうとて新
しきや、申後順家も信も成はるゝかゝり能
付善法役付礼物と云ふ諸人又と云ふ成
まゝの事と云ふはるゝ物と信はるゝ事
物おら、何れもはるゝ先物と云ふはるゝ事
て皆人とも云ふ望人かゝり、成放るゝ事
也、付おはるゝと云ふ深と信と云ふはるゝ事
し中氣も入信も成の事と云ふはるゝ事
と云ふ也

若し師穿鑿を可く如件

○廿六 信重を被仰由物あり思

廿一 判川と見せし猶人亦流事と思

廿二 火いせいしあやうの事と思

廿三 人と使てし能人とし出し少か人ありと思

廿四 山と持てし必亡由も成事と思

廿五 百前と為てし有しし終可勝事と思

如件

○廿七 名坂強正申山は物あり用五ヶ条あり

廿一 若將者老者と用

廿二 老將者若者と用

廿三 少か人成りし老者あり用

右 廿一 身若者大に老者と用て前代掌あり

汝へ勝負吾等画中し初中後と紀し

如く私身し如事しと汝に若者とし罪

多しと罪し一も執おしましく汝者とし尤而

忠切のあり者とし孝は是正通正義と云

如件

ありしめ件

おのり^上と取て新及と用

おのり^上と取て新及と用

右五ヶ条を^上出抄大お^上の向極^上之件^上甲

陽軍^上繼十九冊軍法芸見方物^上又兼^上

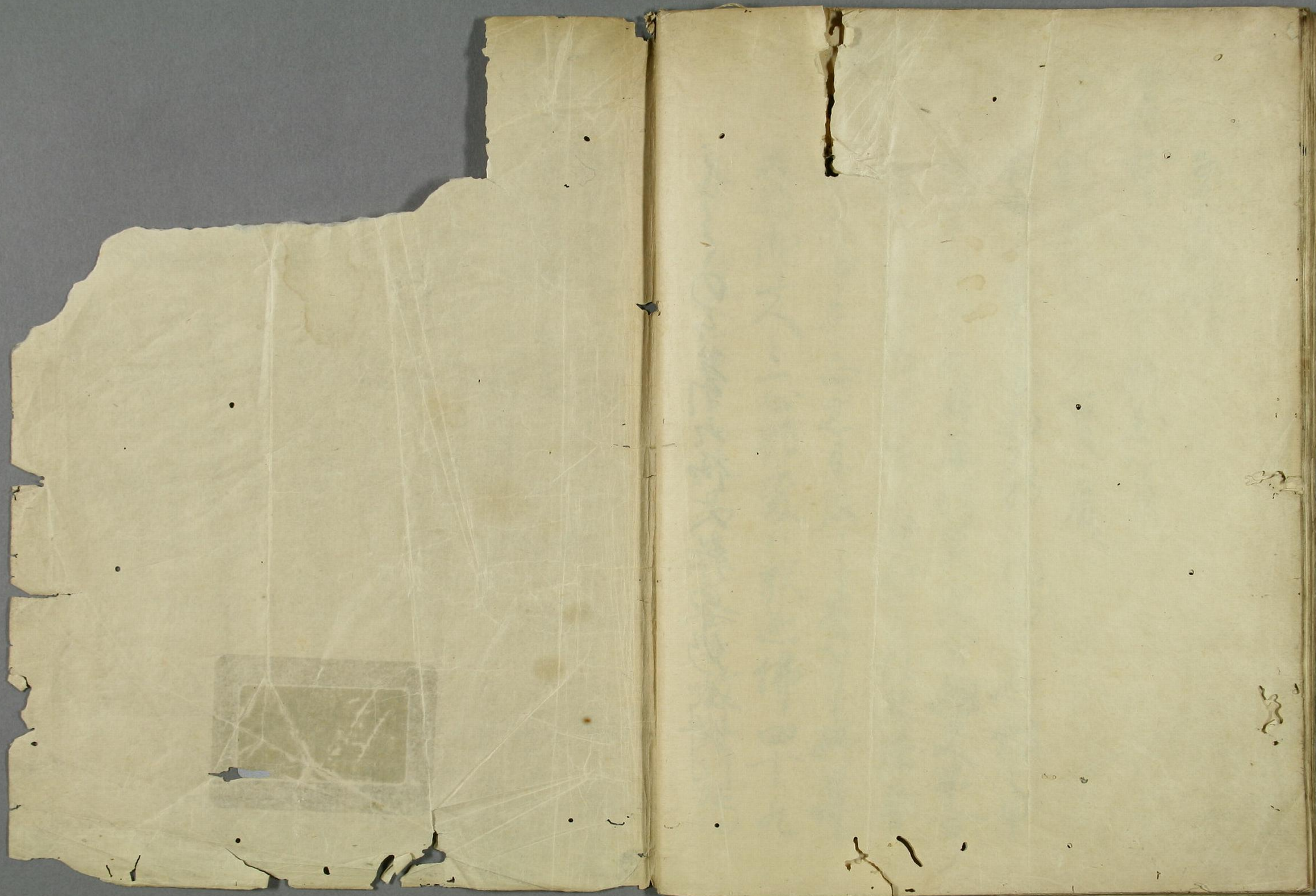
上中下九七品と^上之^上能^上之^上行此^上給要^上

と九品^上と^上之^上心^上之^上本^上為^上其^上と^上之^上拂^上為^上條

大お^上所^上一人^上と^上心^上持^上愛^上ハ^上釈^上迦^上佛^上四十九

年^上と^上繼^上一字^上不^上脱^上不^上之^上文字^上放^上外^上引^上條

い^上ま^上の^上ら^上新^上九^上極^上大^上給^上要^上仍^上如^上件^上



早稲田大学図書館

011888006658